



「描かれた幻視」から探る

ヒルデガルト

上智大学中世思想研究所主催講演会

2015 3/8 Sun. 13:20-16:50

会場：上智大学四ツ谷キャンパス 2-508 教室 (2号館5階 開場 13:00)

13:20-13:30 開会挨拶

13:30-15:00 ご講演 鈴木桂子 (大妻女子大学)

15:00-15:15 休憩

15:15-16:45 コメント 矢内義顕 (早稲田大学)

／質疑応答・司会 佐藤直子 (当研究所所長)

16:45-16:50 閉会挨拶

* 進行 梅田孝太 (当研究所配属特別研究員)

連絡先：上智大学中世思想研究所 TEL: 03-3238-3822 / e-mail: imdthght@sophia.ac.jp

「描かれた幻視」から探るヒルデガルト

ご挨拶

このたび上智大学中世思想研究所では、ビンゲンのヒルデガルト（Hildegard von Bingen 1098-1179年）の著作の挿絵（細密画）のご研究に当たられている鈴木桂子先生をお招きし、ご講演をいただくこととなりました。

ヒルデガルトは生前から幻視者・預言者として著名でしたが、その活動があまりに多岐にわたることから、彼女の全体像は学術研究の主題となりにくい状況にあります。

本講演ではヒルデガルトの活動の源である「幻視」(visio)に着目し、二つの幻視著作——処女作『スキヴィアス』と晩年の著作『神の御業』——に焦点を当て、幻視を「書き記す」と、「挿絵」としてこれを「描く」ことがきわめてパラドクシカルな営為であることを浮き彫りにしていきます。さらに『神の御業』については、その挿絵とテキスト分析から、当時の造形芸術と彼女の幻視との間の関係を考察します。こうした観点から、ヒルデガルトの幻視の神秘性とこの幻視者の実像を私たちはいかに捉えるべきなのでしょう。

講演者のこの問題意識は、美術史的に確固たる足場を持ちながらもその射程を越え、神秘を受容しこれを表現する人間の宗教的営みへの問いかけとなっています。そこで今回、コメンテーターとして修道院神学に造詣の深い矢内義顕先生をお迎えし、複層的な問題を整理していただきながら、フロアの皆さまも交えた質疑応答を通して、ヒルデガルトの実像について学際的に考えを巡らせる場を共有したいと思います。研究者の方々、また一般の聴講者の皆様のご参加を心より歓迎申し上げます。

上智大学中世思想研究所所長 佐藤直子

講演者・コメンテーター紹介

鈴木桂子（大妻女子大学非常勤講師）：ベルン大学（西洋中世美術史専攻）で博士号取得。刊行論文、著作：Zum Strukturproblem in den Visionsdarstellungen der Rupertsberger "Scivias"-Handschrift, in: *Sacris erudiri: Jaarboek voor godsdienstwetenschappen* 35, Brepols, 1995; *Bildgewordene Visionen oder Visionserzählungen: vergleichende Studie über die Visionsdarstellungen in der Rupertsberger "Scivias"-Handschrift und im Luccheser "Liber divinorum operum"-Codex der Hildegard von Bingen*, Peter Lang, 1998; 「ヒルデガルト・フォン・ビンゲン——幻視と生きる」、東洋英和女学院大学死生学研究所編『死生学年報 2011』所収、他。

矢内義顕（早稲田大学商学学術院教授）：上智大学中世思想研究所編訳監修『中世思想原典集成 10 修道院神学』（当巻監修、平凡社）、「カンタペリーのアンセルムスにおける信仰と理性」、上智大学中世思想研究所編『中世における信仰と知』（知泉書館、2013年）所収、K・フラッシュ『ニコラウス・クザーヌスとその時代』（翻訳、知泉書館、2014年）、R・W・サザーン『カンタペリーのアンセルムス——風景の中の肖像』（翻訳、知泉書館、2014年）、他。

